

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	中村 太戯留
主 論 文 題 目： ユーモア理解過程に関する研究 ― 不調和の解消とその神経基盤 ―				
<p>(内容の要旨)</p> <p>ユーモア理解の主要な理論によれば、表現に何らかの不調和を感知し、それを解消した際、私たちはユーモアを理解することが示唆されている。これは「不調和解消理論」と呼ばれている。実証的な研究は、ユーモア理解の神経基盤を調査し、複数の神経基盤を提案しているが、不調和の解消に特有な神経基盤は依然として不明なままである。理由としては、解消段階がユーモア理解の要であるにもかかわらず、両段階がほぼ同時に生じるため、感知段階との区別が困難であった可能性が考えられた。ユーモアを生じうる比喻や皮肉は、発話の意味や発話者の意味の不調和解消を伴うため、これらの表現を用いた両段階の分離の可能性を探った。そして、比喻における新たな関係性の見いだしを制御することにより、両段階が分離可能となった。具体的には、感知段階の直後にユーモア処理を一時停止することにより、解消段階を単独で生じさせるため、ユーモアを生じる「<i>A</i> と掛けて、<i>B</i> と解く。その心は <i>X</i>」という形式を用いた。不調和解消の神経基盤を明らかにするために、機能的核磁気共鳴装置を用いた健常参加者による実験を実施した。結果として、不調和の解消は、ポジティブ情動を誘発し、またポジティブ情動と関連する左扁桃体を賦活した。これらの所見に基づくと、扁桃体は、その情動機制による評価、特に外的情報の関連性感知という機能的な役割を考慮すると、ユーモア理解における重要な役割を果たすと考えられる。</p> <p>キーワード：面白さ、関連性、扁桃体、意味づけ、不調和解消、fMRI</p>				